

## 宮日出版文化賞 候補作6点決まる

県内の優れた図書を顕彰する「第36回宮日出版文化賞」(宮崎日日新聞社主催)の候補作6点が、20日決まった。6月の最終選考で受賞作を決定する。

同賞は2025年4月1日～26年3月31日に県内在住者が出版した作品が対象で、48点の応募があった。

宮崎日日新聞社内の事務局が1次選考会を開いて審査。ノンフィクションや地域史、文芸書などから6点に絞り込んだ。

最終選考会には外部有識者を加える。選考委員は田中利砂子(委員長、南九州

候補作は次の通り。(敬称略、五十音順)

大短期大学部准教授)、楠田剛士(宮崎公立天文学部准教授)、田畑久美子(宮崎子どもと本をつなぐネットワーク世話人)、海野由憲(県立図書館長)の4氏と吉岡智子宮崎日日新聞社編集局長。

「(現在美術)批評1」石川千佳子(忘羊社)▽「現代諷刺上井算兼日記4」新名二仁(ヒムカ出版)▽「最果てキッチン」高山環(ポプラ社)▽「戦争が生んだ町」宮崎市波島沖縄・奄美集落の80年」土橋大記(鉾脈社)▽「高千穂の山腹用水路」竹下伸一(鉾脈社)▽「ママのたっこがい」の「ふじたみわ(文芸社)



第36回宮日出版文化賞の候補に選ばれた6作品